


東京大都市圏における都市農業の 商品化とその持続性



菊地俊夫
首都大学東京
都市環境科学研究科

A photograph of a rural landscape. In the foreground, there are several haystacks made of harvested rice, supported by wooden stakes. To the left, a concrete-lined irrigation channel flows through the fields. The middle ground shows a flat area with some buildings and parked cars. In the background, there are rolling hills covered in dense green trees under an overcast sky.

東京大都市圏におけるルーラリティの商品化
—横浜市青葉区寺家地区の事例—

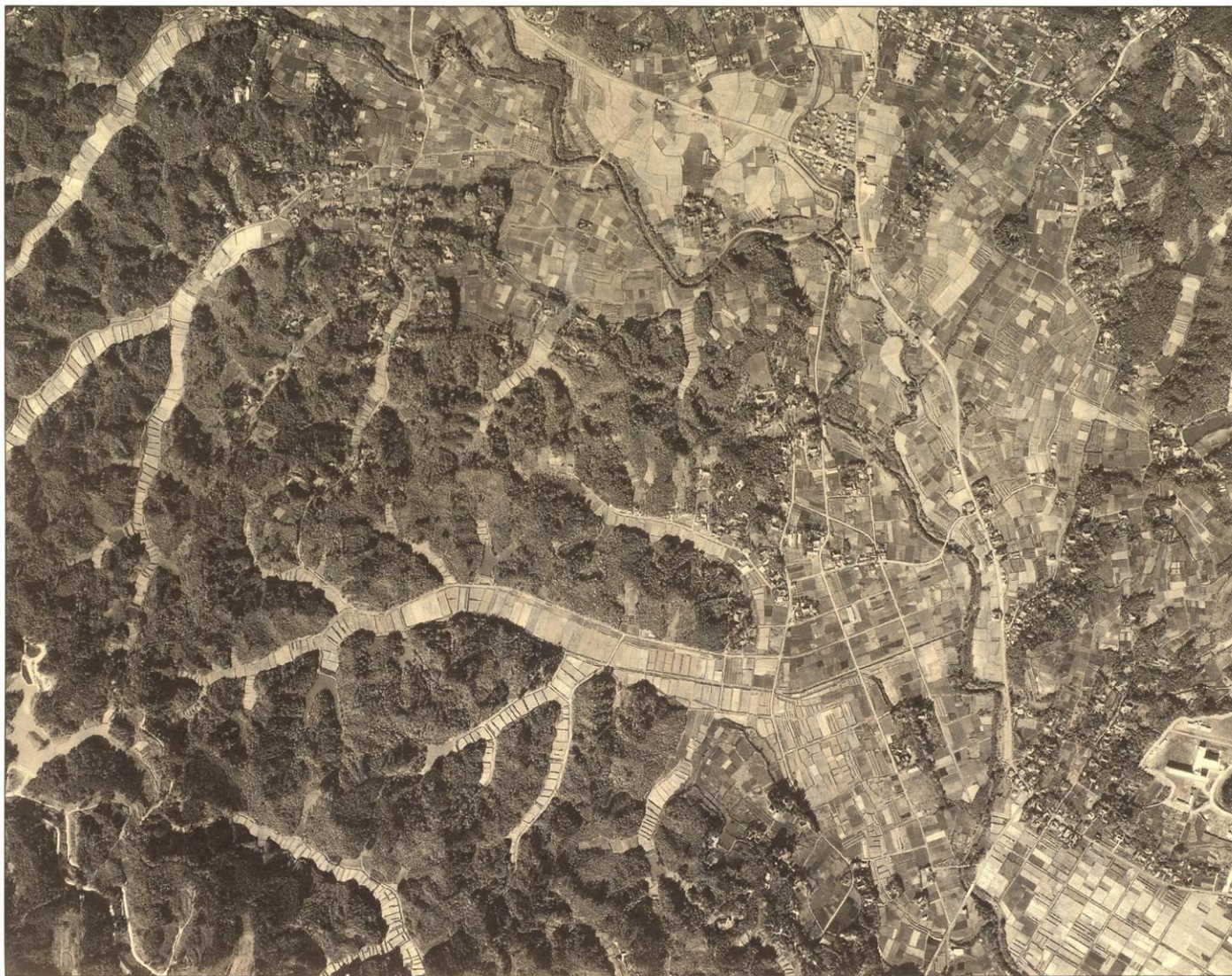
ルーラリティ(rurality)とは何か

- ルーラリティとは農村的の総体的な性格
- ルーラリティを構成する要素
 - 生態的基盤(地域の自然環境、土地基盤、土地条件、農地)
 - 経済的基盤(農業生産、農業的土地利用)
 - 社会的基盤(農村コミュニティ、生活組織)
 - 構成要素の有機的つながりによりルーラリティの形成
 - 構成要素1つの変化は有機的つながりに影響を及ぼし、ルーラリティの性格にも影響を及ぼす

大都市とその近郊における ルーラリティの性格と問題

- 生態的基盤（農地や里山、自然地、緑地など）の脆弱化
→ 農地や里山の適正利用と管理
- 大都市に依存する経済的基盤
→ 都市的土地利用の無秩序な拡大
→ 大都市に依存する経済活動
- コミュニティの混住化による社会的基盤の変容
→ 伝統的な地域コミュニティや生活文化の衰退
→ 個々の地域アイデンティティの衰退
- 地域固有の資源利用の減少
→ 地域の土地資源や人的資源、文化的資源の利用を
放棄

1964年の寺家町周辺の景観(国土地理院空中写真)



写真右側が北を示す

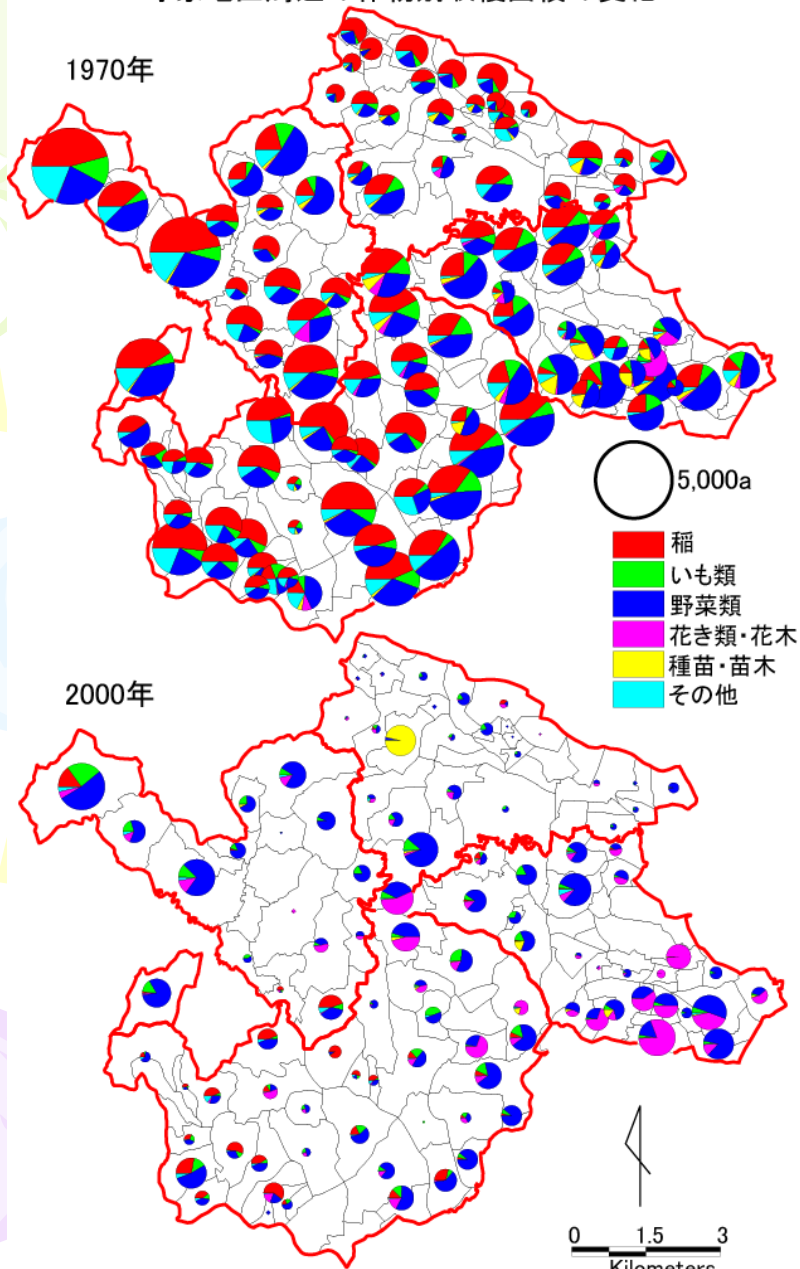
平地林が農村景観として多く分布し、谷地田も発達している。

2004年の寺家町周辺の景観(国土地理院空中写真)



台地上の平地林は伐採されて住宅地に変化し、森林面積は急減した。
住宅地の拡大により、水田や畑地も縮小した。

寺家地区周辺の作物別収穫面積の変化



- **1970年**;多くの集落で水稲作を中心とした農業経営が行われ、水稲に次いで野菜類の収穫面積が大きいこともわかる。寺家地区周辺の農業は兼業農家による水稲作と野菜を中心とした畑作で特徴づけられる。
- **2000年**:作物収穫面積は全体的に大きく減少し、なかでも水稲作の減少が著しい。作物収穫面積の減少が相対的に小さい集落は、鶴見川沿いでみられ、野菜や花卉の栽培を中心とした近郊農業が行われている。

寺家地区における 農村空間の商品化

都市農業の課題: 農家数の減少
と経営耕地面積の縮小

→美しい田園景観を保全しながら、土地、人を含めた農村資源を活用する。

→観光農業の推進などで、農家の生活安定と地域の就業機会の増大に努め、地域を活性化させる。

→新住民、学童等が、自然、農業、ルーラリティを体験することにより、健康で心豊かな人づくりに役立てるとともに、農村と都市との相互理解を深める。



里山と谷戸の保全によるルーラリティの商品化



地域計画により農村空間を保全する仕組みがえられる

ルーラリティの商品化にともなう生態的基盤と 生物多様性の維持



農村空間の保全により生態系が保全される

ルーラリティの商品化による農業維持と多機能化



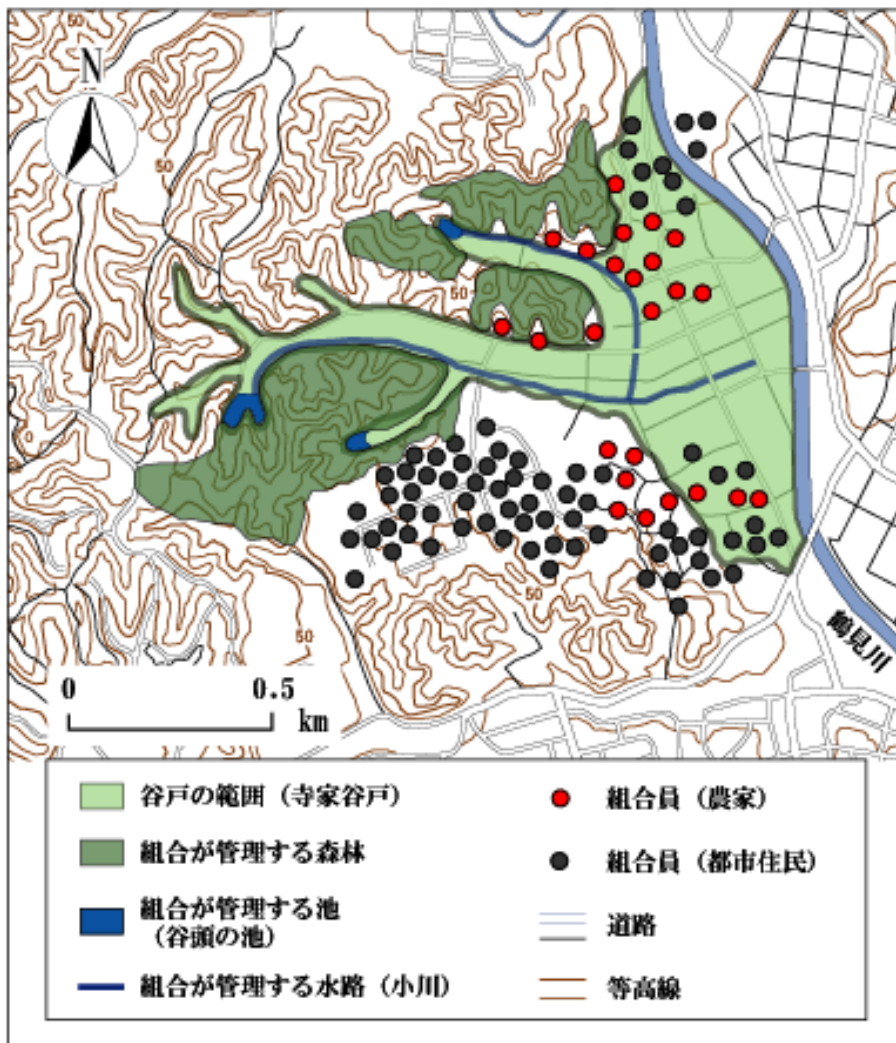
多機能化と多品目少量生産による都市農業の維持

ルーラリティの商品化にともなう都市と農村の交流



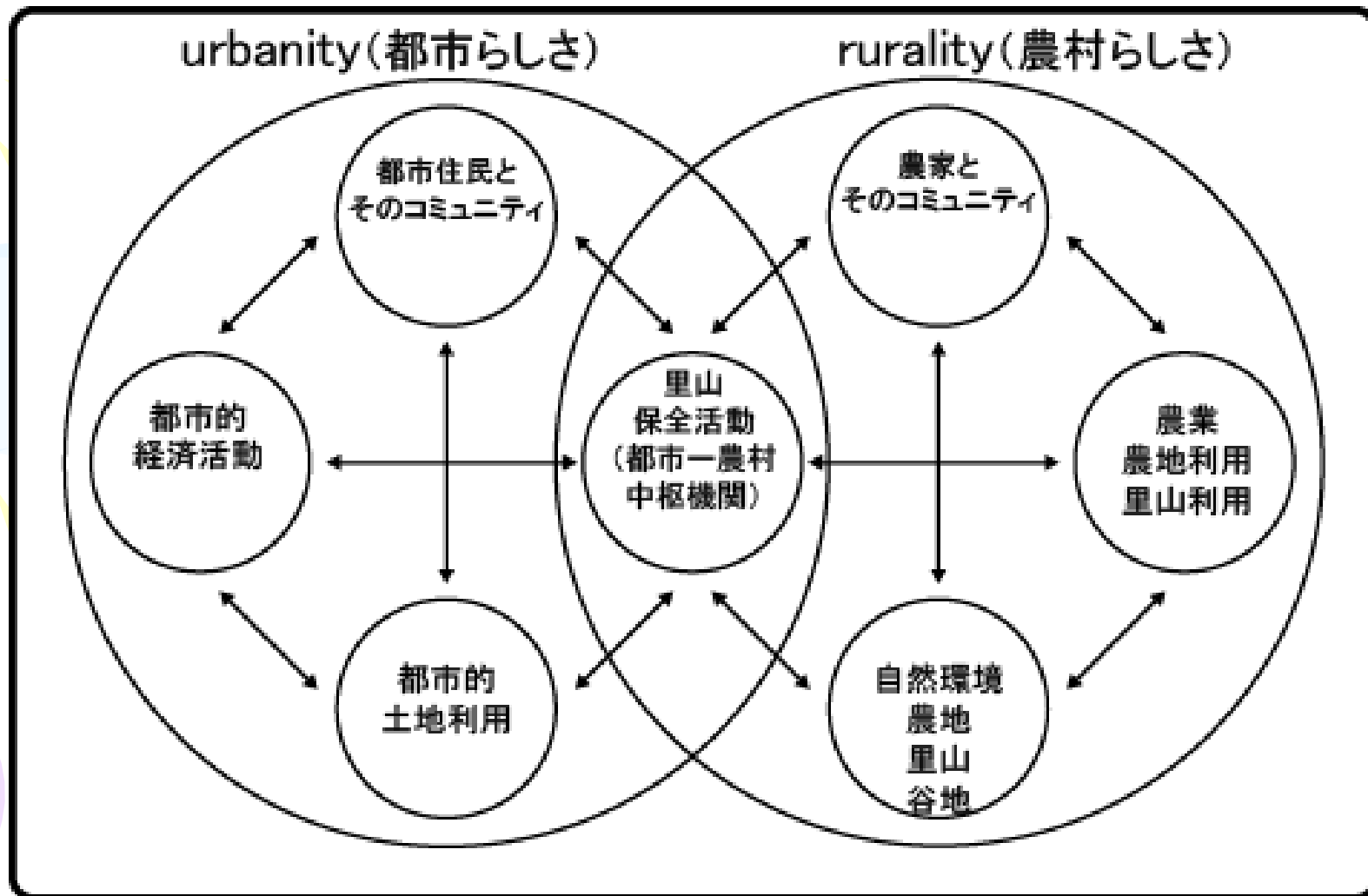
多品目少量生産に適した農産物直売所に基づく都市農業の発展

農村空間の維持主体としての 寺家ふるさと村体験農業振興組合



- 1981年に農林水産省の自然活用型農村地域構造改善事業(神奈川県・緑の里整備事業)が農村空間の商品化の契機。
- 1984年に設立された寺家ふるさと村体験農業振興組合が農村空間の商品化の担い手。
- 農村における生態的基盤と経済的基盤、および社会的基盤を相互に関連させて、ルーラルツーリズム空間として持続。
- 振興組合: 農家23戸, 都市住民(サポーター): 70~80戸

大都市圏におけるルーラリティの商品化とその持続システム

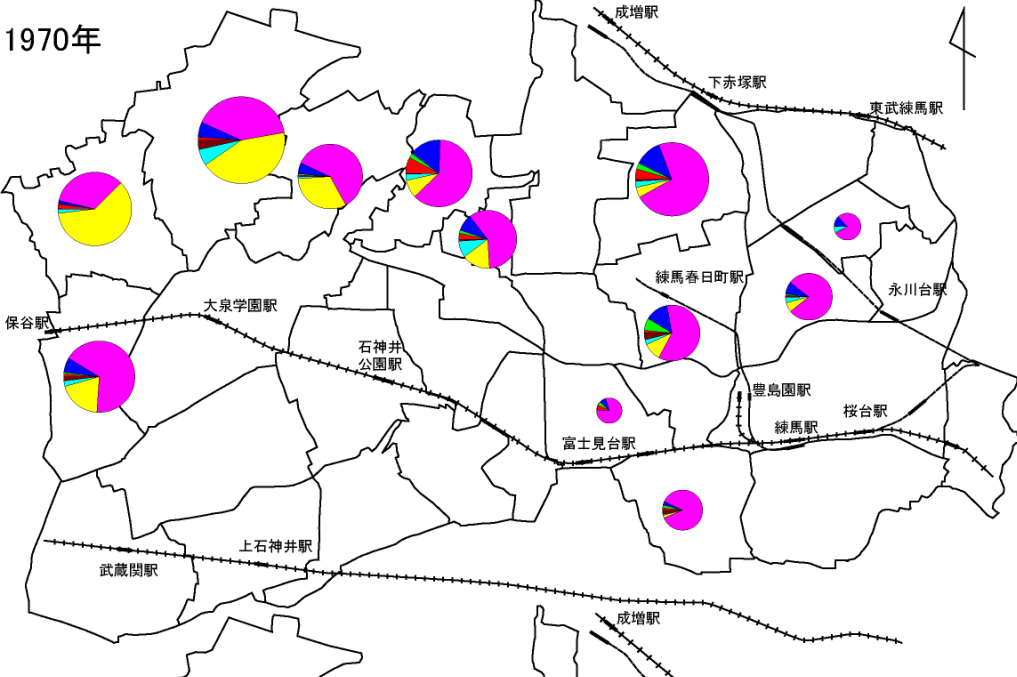


社会的持続性

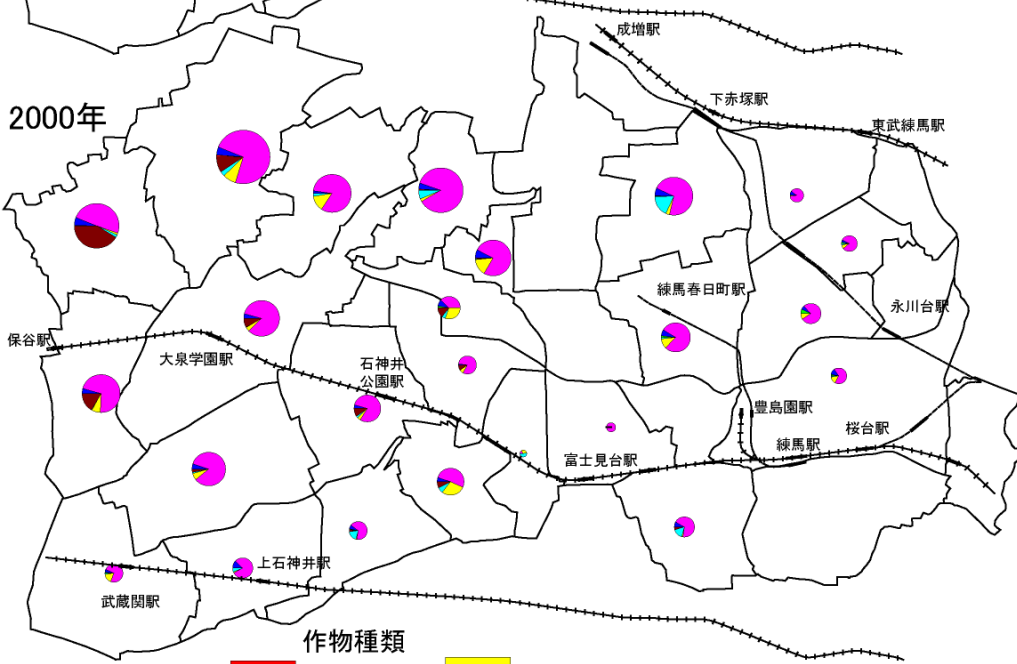
東京大都市圏における農業体験の商品化 — 東京都練馬区の事例 —



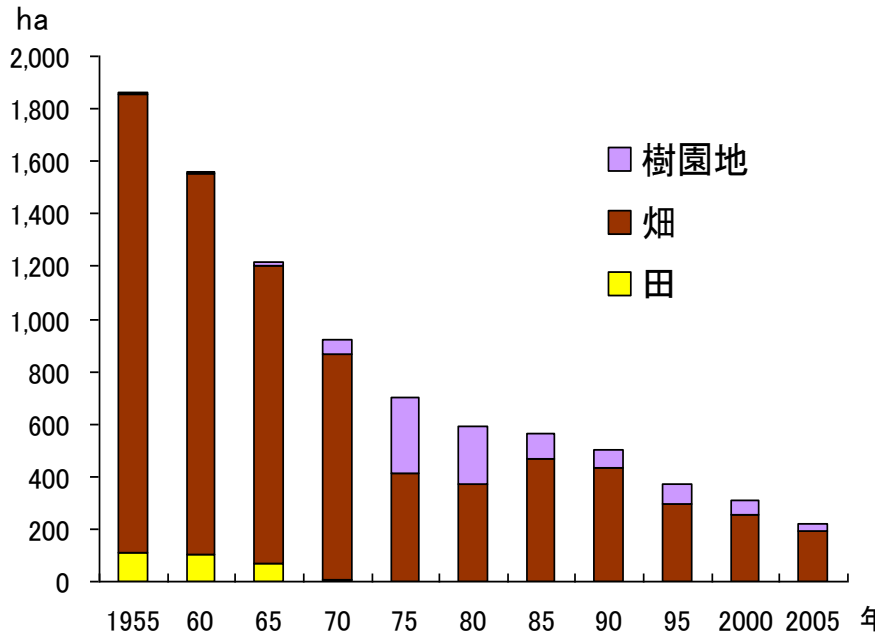
1970年



2000年



0 1 2
Kilometers

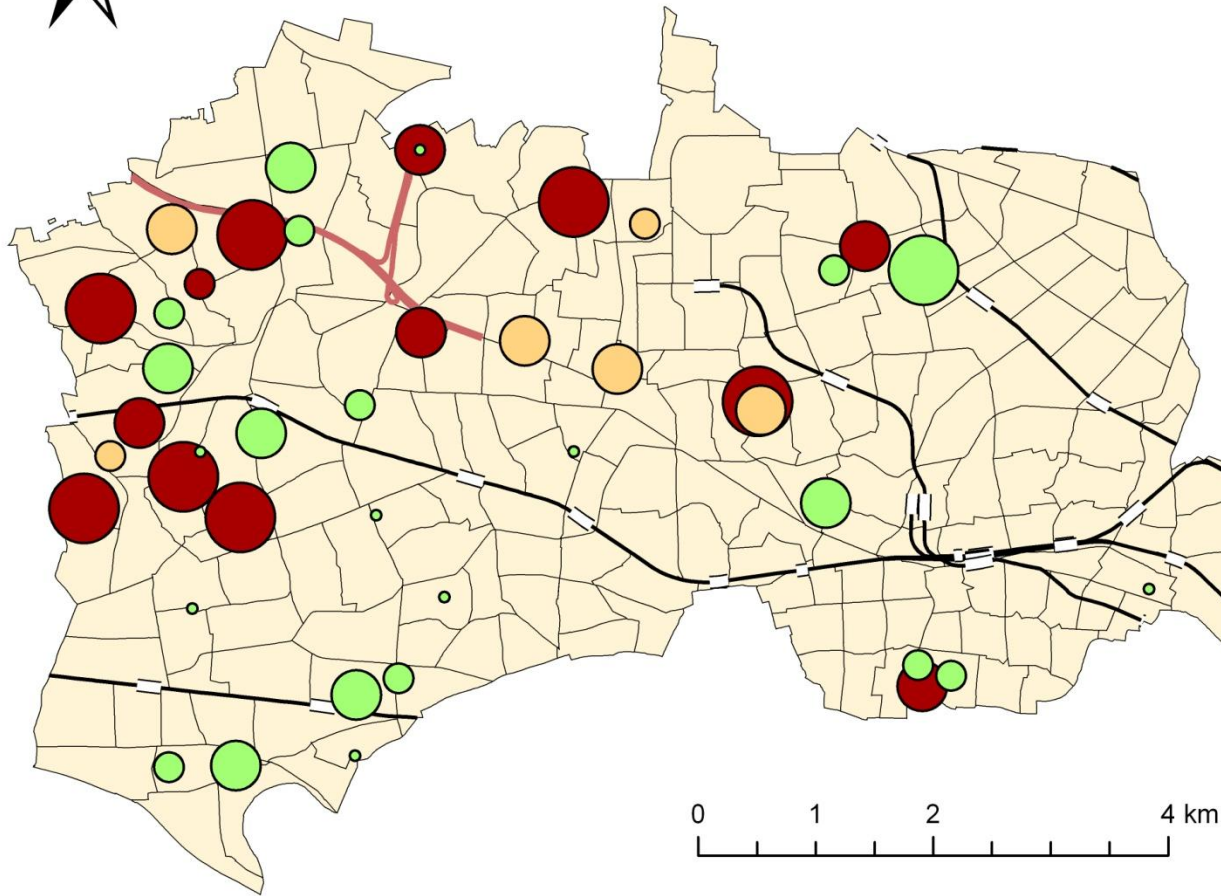


農林業センサス・集落カードより作成

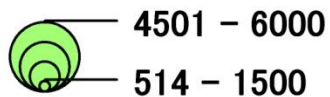
- ・経営耕地面積：1955年から約9割減少
- ・畑作中心の経営耕地の利用。
- ・現在は、練馬区西部を中心に畑で野菜類の生産が中心。

練馬区の農地面積の推移

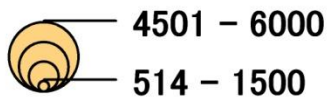
練馬区における都市農業維持のための 農園事業の分布とその面積



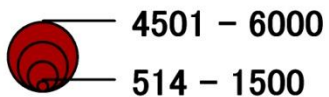
区民農園 (m2)



市民農園 (m2)



農業体験農園 (m2)



— 高速道路

— 駅

— 鉄道



練馬区提供資料より作成

農業生産者(園主)における 体験農園のメリット

①利用者からの利用料→安定した収入

1区画 43,000円／10ヶ月

10aあたり 100万円以上の売り上げ

②労働時間の縮減

平均40aで約25%の縮減

③生産緑地での営農行為→農地課税, 相続税猶予制度の適用を受けられる

④利用者との交流→やりがいに

⑤園主会のネットワーク→協調と競争



利用者における体験農園のメリット

①質の高い農産物を得ることができる

②農作業への知識の増加・
栽培技術の向上

← 農家の指導を受けながら
作業ができるため

③自然(土)に触れる喜び

④園主, 利用者との新しい出会い／交流の喜び





その他の体験農園のメリット

①新しい産業の台頭

地元の食材を活用したレストランの開業

地元の食材を活用した特産品開発

②区民(全体) 『2007年度区民意識意向調査報告書』

農地を残す意識の高さ(20歳代, 30歳代)

③行政運営

区民農園・市民農園から農業体験農園へ

「練馬モデル」推進の自治体としての評価



練馬の野菜食材を使った
地産地消のレストラン



東京大都市圏における農産直売所に基づく

農業生産の商品化

—東京都小平市の事例—

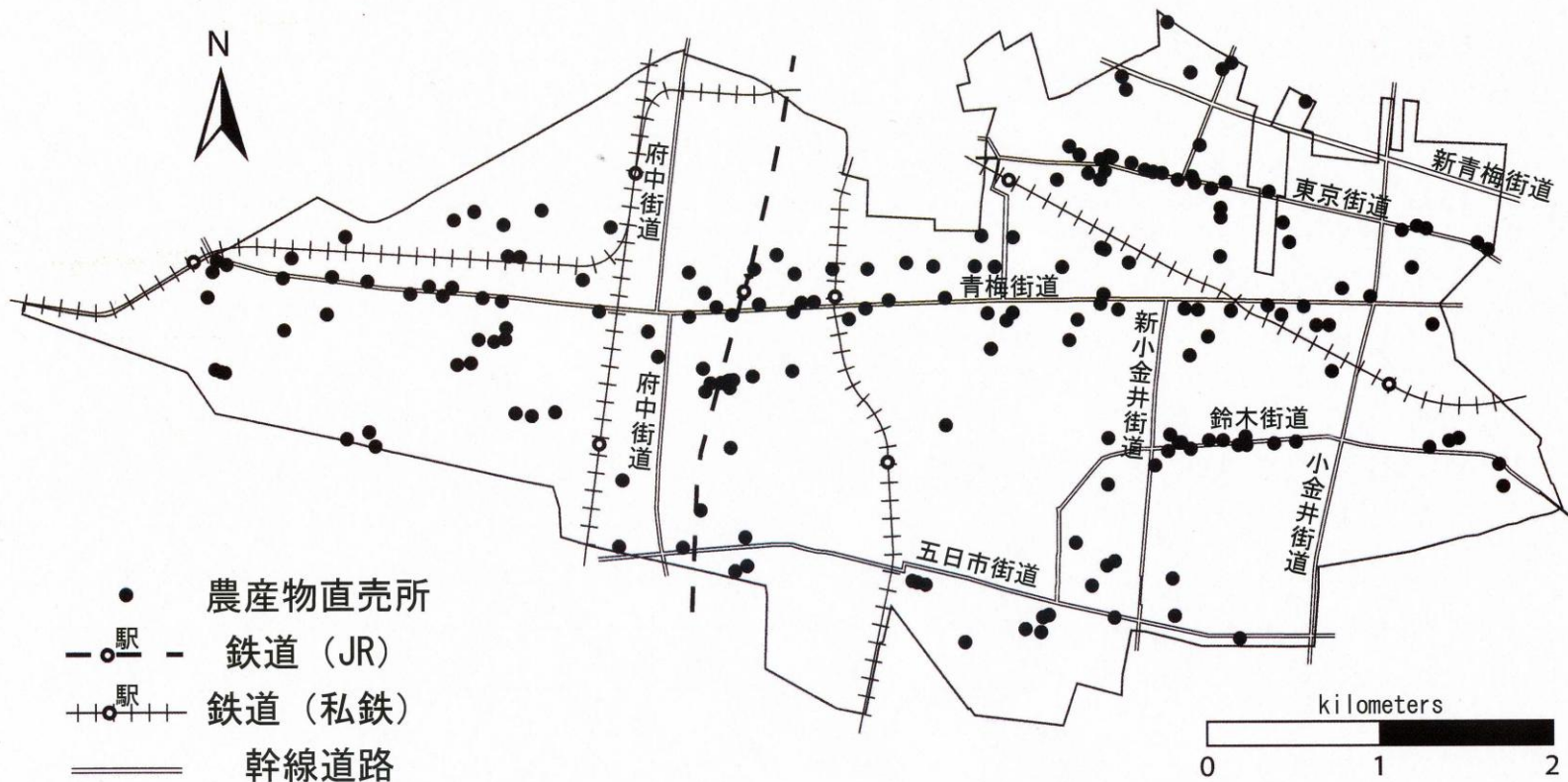
小平市における農業の変化

- 1950年代以前、麦類＋芋類＋大根の栽培を行う伝統的な畑作複合経営が維持されていた(武蔵野台地の土地条件に適応)
- 1960年代以降、根菜類や葉菜類の野菜栽培が発達し、農業的土地利用の中心になる(大都市市場に近接する利点を活かして)
- 1980年代になると、多様な野菜の栽培が発達
- 多品目少量生産と多毛作による野菜栽培の発達(都市近郊農業の典型的な特徴)
 - 小規模な経営耕地に対応した農業
 - 年間労働の平準化
 - 農業的土地利用の維持
 - 大都市市場出荷の困難(低廉で大量の野菜生産できない)
- 多品目少量生産による野菜の市場として、農産物直売所(市内の都市住民向け)が1990年代以降に多く立地



- 小平市における農家1戸当たりの経営耕地面積は小規模
→多毛作により延経営面積を拡大させる
→多品目少量生産により多様な野菜を都市住民に供給
- 都市化により農業的土地利用の持続は困難
→新鮮で安全な野菜を都市住民に直接供給することに活路
→都市住民に農産物を供給する場として直売所が重要

小平市における農産物直売所の分布(2000年)

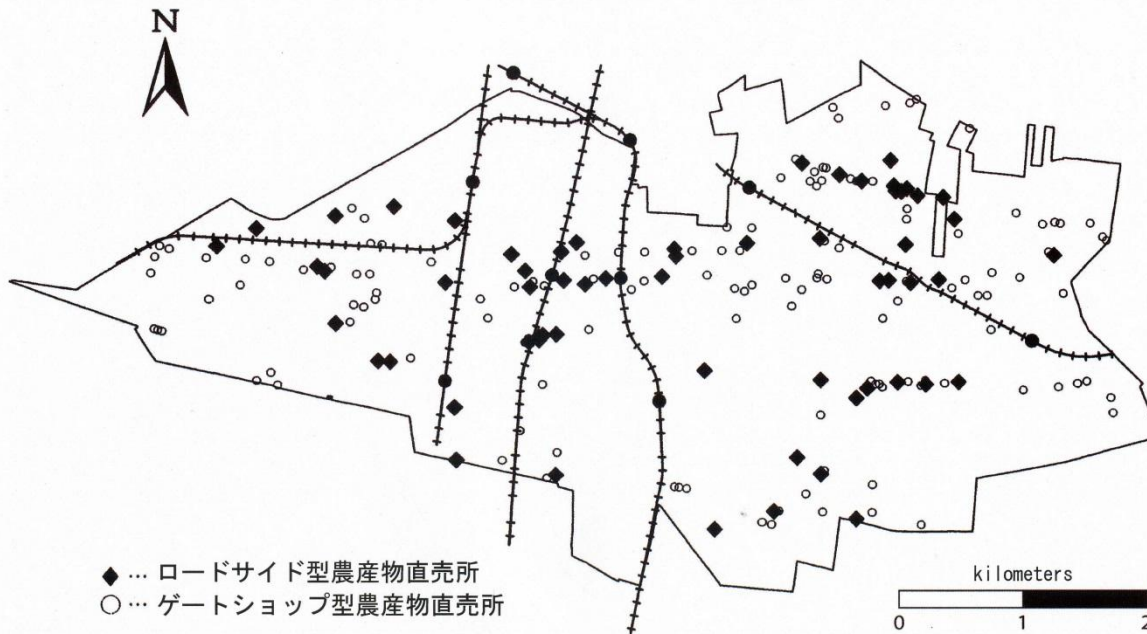


・小平市における農産物直売所は市北部に多く分布する(農家や農業的土地利用が比較的多く残されている)

・多くの農産物直売所が幹線道路沿いに分布している(都市住民のアクセスの利便性のため)

小平市における農産物 直売所の2つの類型

農産物直売所の分布や立地パターンから2つのタイプに類型化する:ロードサイド型(道路沿線型)とゲートショップ型(庭先型)



- **ロードサイド型(道路沿線型)**
 - 交通の利便性をより意識して道路沿線に立地(56カ所)
 - 常設の施設と有人経営(複数の農家の共同経営が多い)
 - 簡易駐車場の設置(地元の都市住民だけでなく通過交通の顧客も対象)
 - 都市住民のために多種多様な農産物の販売
 - 地元産だけでなく他産地の農産物も提供(直売所における品薄現象を回避させる)
 - 周年的な経営と農産物の提供



• ゲートショップ型農産直売所

- 農家の庭先や自宅付近の農地の端に立地
- 必ずしも幹線道路に面していないし、幹線道路から離れていることが多い
- 主に近所の地元都市住民が利用
- 簡易施設ないし仮設の施設で、無人経営(主に個人経営)
- 無人で経営が成り立つという保証(料金支払いの農家と都市住民との暗黙の了解が成立)
- 直売する農産物の供給量と品数が少ない(売り切れることや求める農産物がないことは当たり前)
- 直売する農産物の季節差や季節的な偏りが大きい
- 直売所収入は副業的収入





農産物直売所の役割

- 少量で不均一な農産物の市場としての役割(小規模な農地と少ない農業労働力で大量で均一な農産物を生産することは困難)
- 新鮮で安全で低廉な農産物を直接、消費者に提供
- 農業的土地利用を継続させる役割
- 近郊農業の意義を再認識させる役割



都市住民からみた 農産物直売所

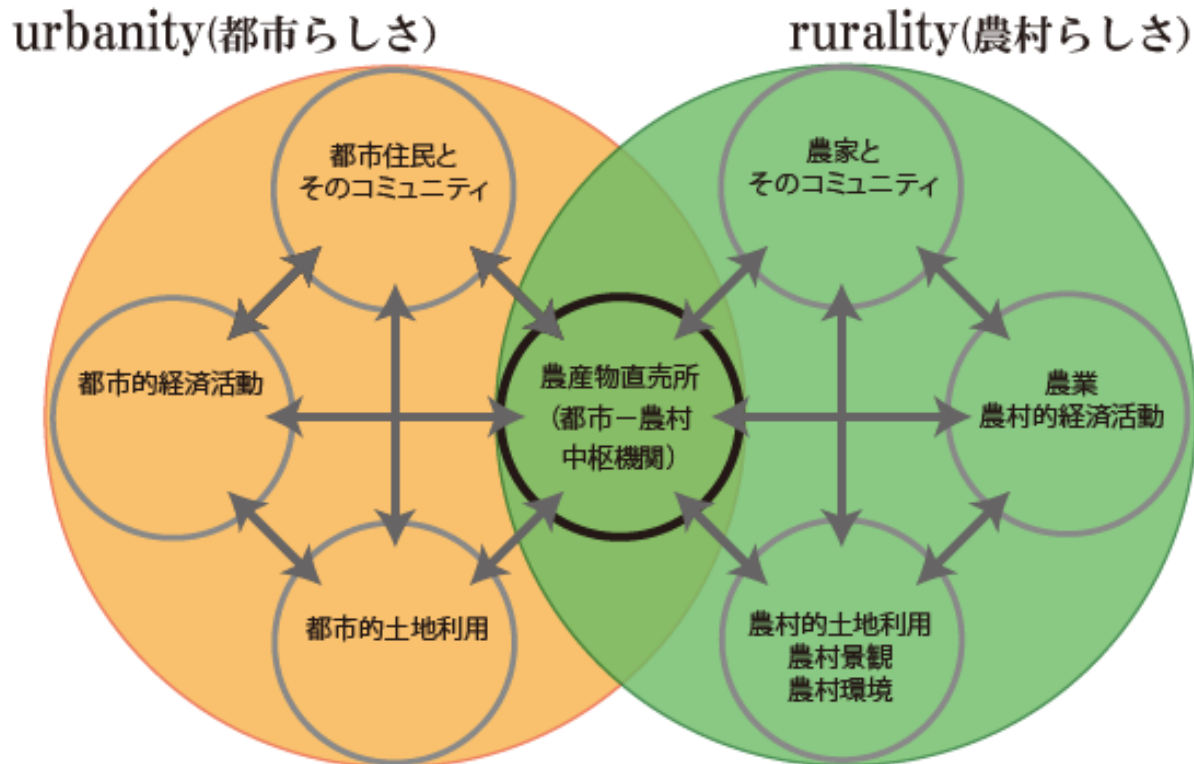
都市住民は新鮮で安全で低廉な農産物を購入することに満足するとともに、多様な農産物の品数にも満足している。

農産物直売所は多品目少量生産の農産物を販売する場として、重要な施設になっている。

- 農産物を直接、都市住民に供給するだけでなく、農家と都市住民との交流の場を提供（都市と農村を結びつける役割）
 - 伝統的な生活文化の情報を共有
 - 地域への愛着やふるさと意識の高揚
 - 伝統的な地域コミュニティへの参加の契機

小平市における農産直売所の 新たな役割と意義

- 従来の農村らしさ (rurality) は、都市らしさ (urbanity) の拡大とともに低下
- 農産物直売所：
農業の維持 → 農村景観・環境の維持 → 農村コミュニティの維持
- 農産物直売所は rurality と urbanity を結びつけ、それらを共存させる中核的機関としての役割 (新鮮で安全安心な旬の農産物を介して)



東京大都市圏における都市酪農の再編と商品化

—八王子・町田市の事例—



八王子市・町田市における酪農経営の実態

- 経営基盤の弱体化
 - 乳価の低迷により酪農家の収入が上昇しない
 - その他の畜産物(肉用乳牛)や農場副産物(堆肥)の価格も低迷
- 飼料基盤の弱体化
 - 少ない自作農地面積のため購入飼料に多くを依存
- 不動産収入に依存した経営
- 高い固定資産税
 - 畜舎・堆肥舎・格納庫などは宅地並み課税対象
- 周辺の宅地化にともなう周辺住民との軋轢(畜産公害)

都市近郊での酪農経営は、さまざまな障害があり困難に

教育の場としての近郊酪農

- 社会科学習(14戸の農家が受け入れ)
- 夏休み酪農ふれあい体験(町田市)
- 子どもたちの直接的な学習体験効果
- 家族に対する間接的な効果



近郊酪農における 都市住民の参加

磯沼牧場の「ジャージークラブ」



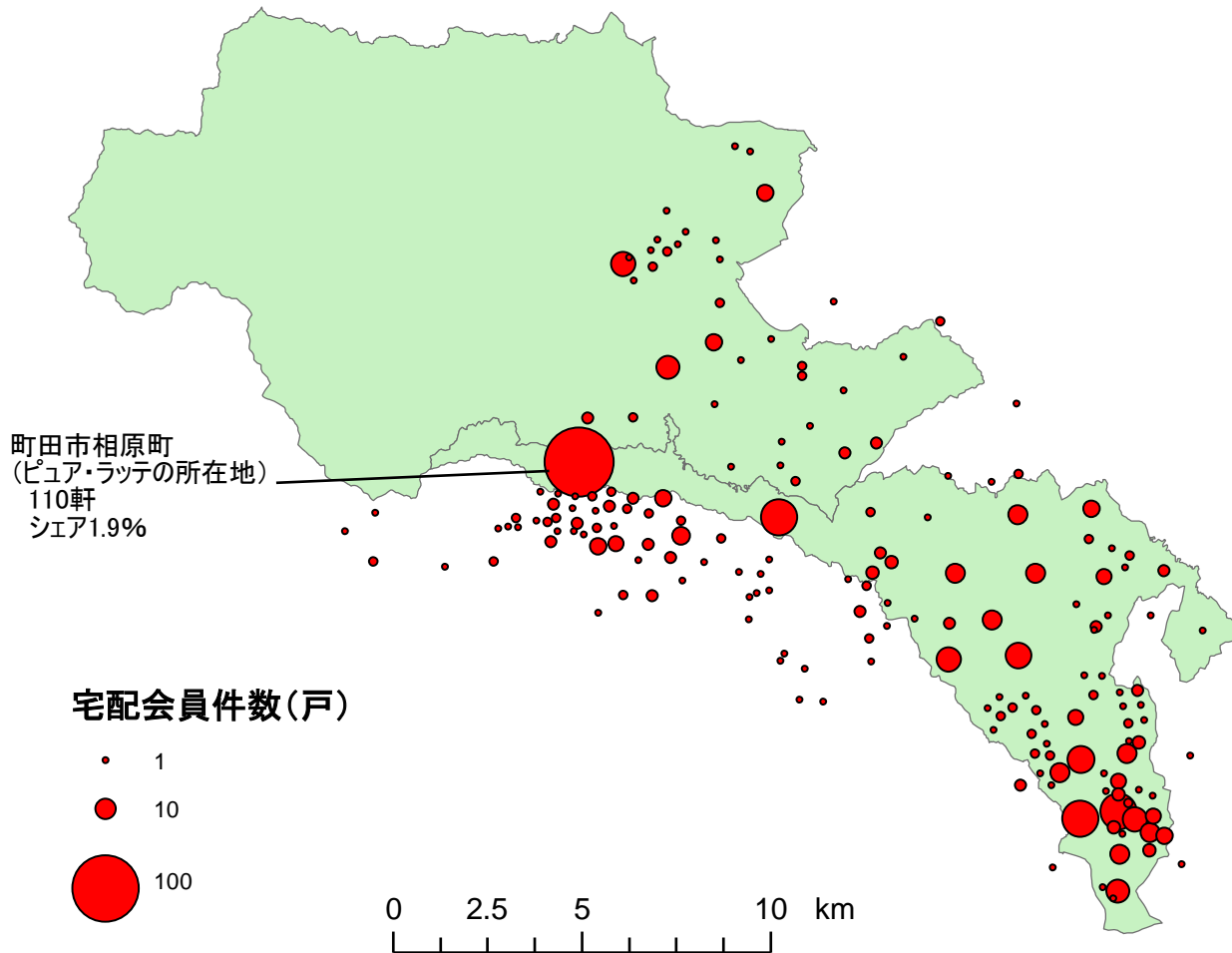
- 収穫祭やバーベキュー大会などで酪農場を開放して都市住民との融和を図る(サポーターを増やす)
- 都市住民:非日常的な体験の場、あるいは余暇空間として認識
- 酪農家:周辺環境の保全や都市住民に配慮)
- 酪農家と地域住民の利益が共有できる場として酪農場を存続

牛乳販売組織としての 都市近郊酪農



- 町田あいす工房ラッテ(ジェラート販売)
- 東京みるく工房ピュア(牛乳・のむヨーグルト販売)
 - 町田市内の酪農家が補助金を利用して共同で設立(ラッテは1994年、ピュアは1998年)
 - ピュアは、約700軒の会員へ低温殺菌牛乳を中心に宅配(会員は町田市・相模原市・八王子市が中心)
 - 背景には「自分たちの作る牛乳が、大手に買い叩かれ、どこで飲まれているか分からない」という状況がある

牛乳販売組織としての都市近郊酪農 —多摩の牛乳ブランドの確立—



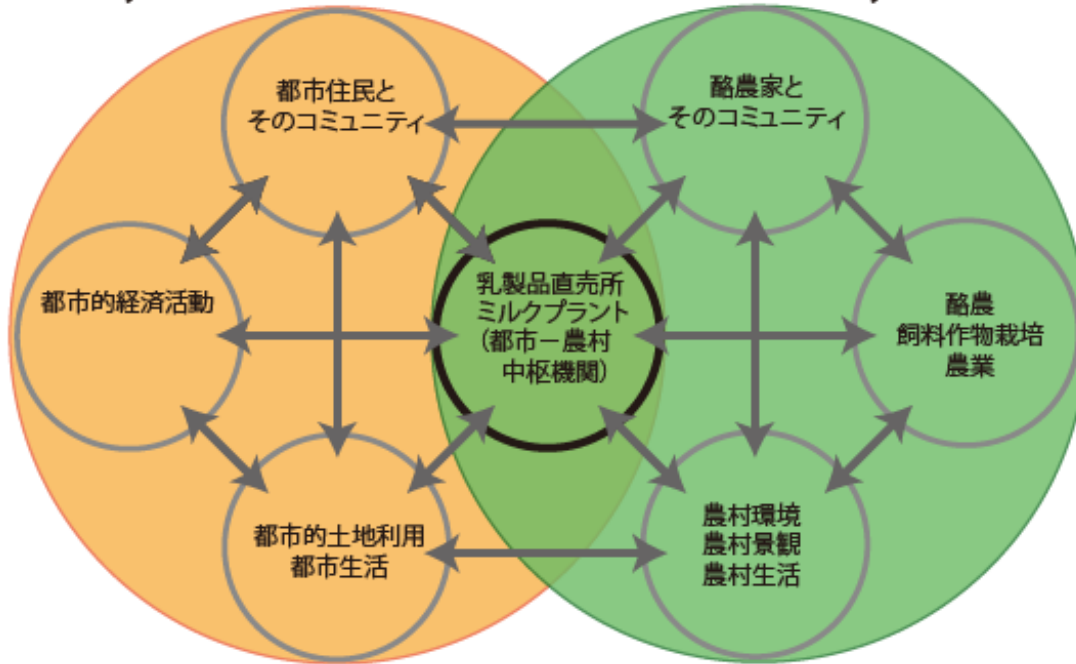
「東京みるく工房ピュア」宅配会員の町丁目別分布

「東京みるく工房ピュア」資料より作成。会員は住所の判明したもののみ表示。

urbanity(都市らしさ)

rurality(農村らしさ)

近郊酪農におけるルーラリティの再生と地域ブランドの持続性モデル



- ルーラリティとアーバニティの共存により近郊酪農が社会的に持続
- 近郊酪農の持続システム: 中枢機関の共通利用(乳製品の直売所・低温殺菌牛乳の宅配により加工場や販売場を共通利用)、コミュニティ間の交流(収穫祭などにより)、生活文化の交流(学校教育や地域教育などによりそれぞれの生活を理解)
- ルーラリティとアーバニティの交流チャンネルの多様化: 安定性

東京大都市圏における 都市農業の商品化とその持続性

- ①農村の生態的要素・経済的要素・社会的要素の有機的つながりにより、都市農業やルーラリティは維持・発展する
- ②生態的要素、経済的要素、社会的要素のうち1つを中枢機関として強化し、その強化の影響が他の要素に及び、要素間の有機的なつながりで都市農業やルーラリティが再生する
- ③ルーラリティ再生の鍵となる中枢機関が都市らしさを構成する要素の1つとして共存することで、都市農業はアーバニティと繋がりをもって共存し持続する